

エコアクション21環境経営レポート

(2025年4月～2026年3月活動実績書)



- 1 組織の概要
- 2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
- 3 環境経営方針
- 4 環境目標（2025年度～2027年度）
- 5 環境目標に対する実績
- 6 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容
- 7 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無
- 8 代表者による全体評価と見直し・指示

作成：2026年5月20日

トヨシマ電機株式会社

<1>組織の概要

(1) 名称及び代表者名

トヨシマ電機株式会社

代表取締役社長 朝倉正幸

(2) 所在地

本社 愛知県小牧市若草町86番地

ホームページアドレス <https://www.toyoshimadenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役企画室室長 大野 強 TEL:0568-75-2246

担当者 取締役総務部部長 山田修一 TEL:0568-75-2165

(4) 事業内容

電子部品の実装設計

クリーンブース・クリーンルームの設計・施工

建設業(大工、電気工事、管工事、内装仕上)

(5) 事業の規模

売上高 11.7 億円

	正社員	臨時員	派遣社員	計
従業員	21名	3名	0名	24名

敷地面積 1,600.55㎡ 延床面積 475.64㎡

(6) 事業年度 6月～5月(活動年度は4月～3月)

(7) 会社沿革

昭和21年3月 愛知紡織(株)として創業

昭和36年9月 豊島グループに参入

昭和44年6月 トヨシマ電機(株)と社名変更

平成19年12月 豊島グループ内にて組織再編を実施

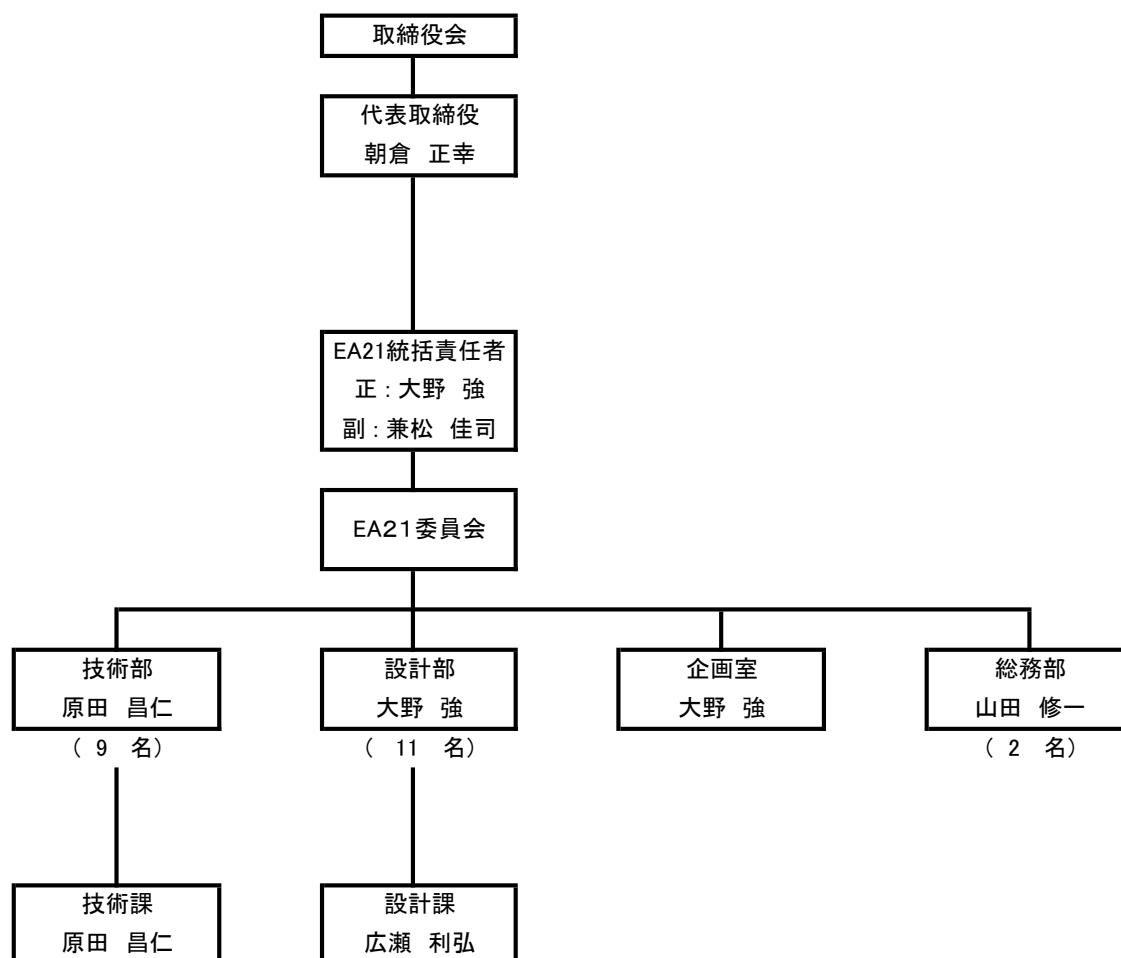
新設分割により、新規にトヨシマ電機(株)を設立

平成21年10月 新社屋完成

平成22年6月 エコアクション21認証・登録

平成29年2月 JISQ9100認証・登録

(8) 実施体制と役割



部署	責任者	役 割
代表取締役	朝倉 正幸	- 環境方針策定及び環境目標の決定及び見直しを行う。 - 環境経営システムの構築及び結果の評価を行う。 - 環境経営システムに有用な人材・設備・資金を確保し、効果的な運用と適切な維持管理を指示する。
環境管理責任者	大野 強	- 環境経営システムの遂行をする。 - 環境関連のコンプライアンスの監視を行う。
技術部	原田 昌仁	- 技術部の日常業務に於ける産業廃棄物の処理方法の検証及び、環境面での顧客への提案に関する活動を推進する。 - 建設業者向けガイドラインへの適用
設計部	大野 強	- プリンター、コピー機のトナー容器をリサイクル活用へ - 省電力の推進
総務部	山田 修一	部内の廃棄物の管理はもとより、社内全体の設備・システムを管理し、環境保全に関する活動を推進する。
EA21委員会	山田 修一	社長、環境管理責任者(正・副)、事務局、各部課長以上で構成し、随時の会合、活動の進捗及び計画・結果の協議を行う。

＜2＞対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1)認証・登録範囲

登録組織名	トヨシマ電機株式会社
活動	電子部品の実装設計 クリーンブース、クリーンルームの設計・施工

1. 技術部事業紹介

クリーンブース



・アルミフレーム式クリーンブースの特長

- ①アルミフレームの結合は ・Tロック ・ボルト ・エンドキャップ を使って
フレーム内部で結合させるため、簡単かつ外観に優れています。
- ②さらにコーナー部にコーナーステー(2ピース)を使い、強固な組立剛性を確保しています。
- ③メーカー直送により、短納期(約2週間)の対応が可能です。
- ④FFUは強弱切替により、省エネ運転も可能です。照明はLED仕様です。

クリーンルーム



・ライン式クリーンルームの特長

- ①少ない換気回数で清浄度を達成出来る
- ②従来方式と較べて清浄度・温湿度のバラツキが少ない
- ③天井下にサプラダクトを設置する為、天井の低い建物にも
クリーンルームが設置可能
- ④クリーンルーム設置後のグレードアップ及び移設も対応可能
- ⑤ユニット式の為、現地工事期間を大幅に短縮出来る
- ⑥室内ユニットのため、メンテナンスが容易
- ⑦空調機をインバーター仕様にする事により、省エネ運転も可能。照明はLED仕様です。

2. 設計部事業紹介

1990年にプリント基板設計を開始し30年以上CAD設計業務に従事しています。

1995年から半導体パッケージ、プローブカード基板設計に分野を広げ、様々な電子機器の発展と共に高品質・短納期を目指し、顧客の用途に合わせたCAD設計を行っています。

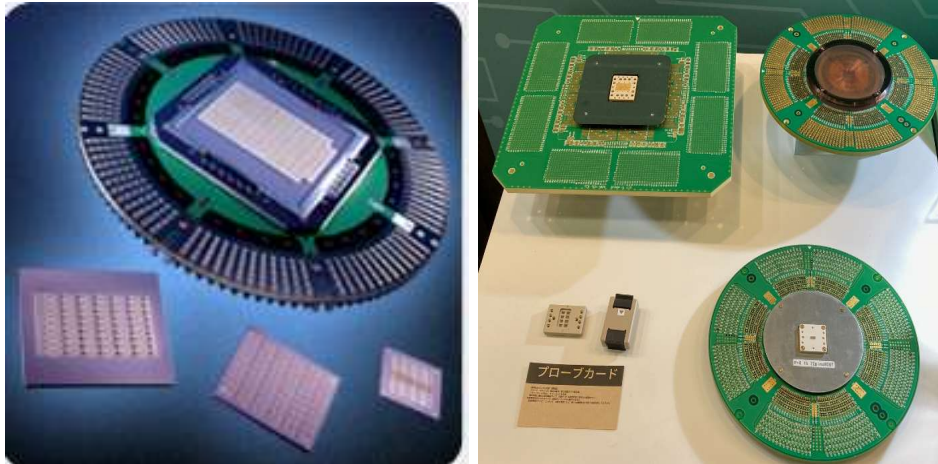
* 2017年に航空宇宙産業への進出を目標にJISQ9100認証を取得しました。

【プローブカード基板】

パソコンやデータサーバー等で使用されるメモリ(DRAM)やSDカード、メモリスティック、

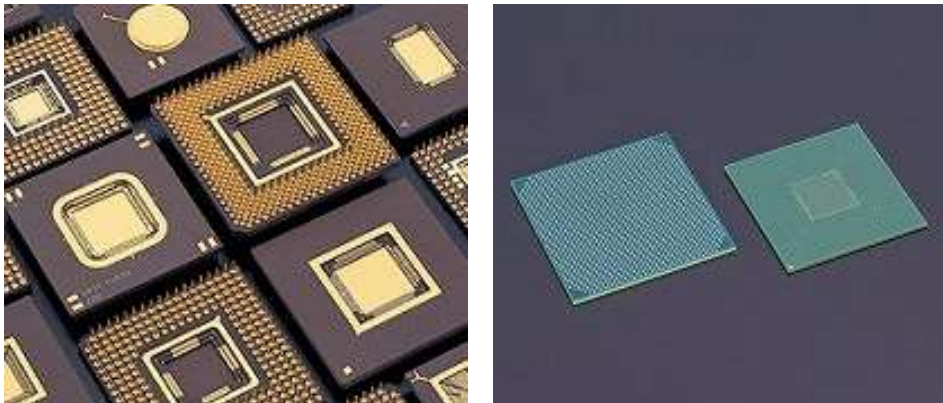
車載向けセンサー等の半導体シリコンウエハーの電気検査で使用されます。

基板サイズの拡大や高密度化に伴うピン数、層数の増加に対応したCAD設計に対応しています。



【パッケージ基板】

MPU,GPUなど高密度で小型化したパッケージ基板のCAD設計に対応しています。



【プリント基板】

様々な製品で使用されるプリント基板のCAD設計に対応しています。



(2)レポートの対象期間及び発行日

対象期間 2025年4月1日から2026年3月31日まで

発行日 2026年5月20日

基本理念

トヨタ電機株式会社は、社会の一員として自然環境の大切さを認識し、此処に行動指針を策定し環境保全に全社で取り組みます。

環境行動指針

当社は電子部品設計及びクリーン環境(クリーンブース・クリーンルーム)関連機器の製造・販売の事業活動において、循環型社会を目指し自然環境に配慮し、その目標達成の為、全社一丸となって取り組みます。

- 1 事業活動において、CO2の排出削減(省エネルギー)に取り組みます。
- 2 資源を大切に、リサイクルとゴミの削減及び水資源投入量の低減に努力します。
- 3 化学物質の使用量の削減・代替努め、環境汚染の防止に努力します。
- 4 環境関連法令を遵守します。
- 5 全社員に環境問題を啓蒙し、環境方針の実行に継続的に取り組みます。
- 6 クリーン設備や環境関連商材、サービスに関する環境配慮に注力し、当該商材の提供により、社外での環境貢献に努めます。

制定日 2010年4月1日

改定日 2022年8月1日

トヨタ電機株式会社
代表取締役 朝倉正幸

<4>環境目標 ②2025年度～2027年度

環境負荷項目と削減目標

事業規模及び活動の変化により、目標値設定の為の基準値を改めて直近過去3年間の実績平均値に設定し直した。目標値については、「直近過去3年間の実績平均値に対し年率1%削減」を継続とし、「2025年度から2027年度の中期目標は3年間で3%の削減」とした。

ガソリン+軽油使用量と産業廃棄物排出量については、技術部の売上要因に大きく影響することから、売上高当たりの排出量をポイントと捉え、環境効率指標の目標値を設定した。

環境経営項目として、技術部の工事件数を前年実績の103%を目標値とする様に設定した。

◇2025年度から2027年度までの目標値

環境方針 負荷項目		基準	第19期	第20期	第21期
		2022年～2024年度 の平均	2025年度	2026年度	2027年度
CO2 排出量	電力使用量		-1%	-2%	-3%
	kWh	43,032	42,602	42,171	41,741
	kg-CO2	18,116	17,935	17,754	17,573
	ガソリン+軽油使用量		-1%	-2%	-3%
	ℓ	7,264	7,192	7,119	7,046
	kg-CO2	16,913	16,744	16,575	16,406
産業廃棄物排出量kg		20,360	-1% 20,156	-2% 19,953	-3% 19,749
OA用紙購入量kg		633.5	-1% 627.2	-2% 620.8	-3% 614.5
総排水量m3		113.1	-1% 112.0	-2% 110.8	-3% 109.7
社会貢献項目		1件以上	1件以上	1件以上	1件以上
太陽光発電量	kWh	23,500～24,500	同左(実績値の把握と記録)		
	CO2	10,000～10,500	同左(実績値の把握と記録)		

※化学物質の使用量は少ないため、化学物質に係る目標は掲げず、適正管理をします。

一般廃棄物は段ボール(リサイクル)とその他紙類。少量の為実績値把握は行うが削減目標は設定しない。

電力のCO2排出係数は中部電力2023年度調整後排出係数0.421kg-CO2/kWh

◇環境効率指標・目標(ポイント=CO2排出総量又は排出総量/売上高百万円)

負荷項目	単位	2025年度目標	2026年度目標	2027年度目標
ガソリン+軽油使用量	CO2排出総量: kg-CO2	16,744	16,575	16,406
	ポイント: kg-CO2/百万円	31.53	31.21	30.90
産業廃棄物排出量	排出量: kg	20,156	19,953	19,749
	ポイント: kg/百万円	37.96	37.58	37.19

売上高は技術部の直近過去3年間の平均値(531百万円)で試算

環境経営項目	単位	目標値
工事件数	件	前年実績103%

<5>環境目標に対する実績

環境方針 負荷項目		基準	第19期		評価 増減量
		2022年～2024年度 の平均	2025年度 目標	2025年度 実績	
CO2 排出量	電力使用量	43,032	-1%	-2%	○
	kWh		42,602	42,352	-680
	kg-CO2		17,935	17,830	-286
	ガソリン+軽油使用量	7,264	-1%	26%	×
	ℓ		7,192	9,166	1,901
	kg-CO2		16,744	21,298	4,384
CO2総排出量 kg-CO2		35,030	34,679	39,128	×
廃棄物 排出量	kg	20,360	-1%	2%	×
			20,156	20,730	370
OA用紙購入量kg		633.5	-1%	3.9%	×
			627.2	658.4	24.8
総排水量m3		113.1	-1%	-5%	○
			112.0	107.4	-5.7
社会貢献項目		1件以上	1件以上	1	○
太陽光発電量	kWh	23,500～24,500	同左	24,529	継続記録
	kg-CO2	10,000～10,500		10,327	

一般廃棄物は段ボール(リサイクル)とその他紙類。少量の為実績値把握は行うが削減目標は設定しない。

電力のCO2排出係数は中部電力2023年度調整後排出係数0.421kg-CO2/kWh

◇環境効率指標・目標(ポイント=CO2排出総量又は排出量/売上高百万円)

負荷項目	単位	2025年度目標	2025年度実績	評価
ガソリン+軽油使用量	CO2排出総量:kg-CO2	16,744	21,298	○
	ポイント:kg-CO2/百万円	31.53	22.15	
産業廃棄物排出量	排出量:kg	20,156	20,730	○
	ポイント:kg/百万円	37.96	21.56	

目標の売上高は技術部の直近過去3年間の平均値(531百万円)で試算、2025年度実績は962百万円

環境経営項目	単位	目標値	実績値
工事件数	件	前年実績103%	93%

<6> 環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

2025年度環境活動計画と取組結果と評価

環境方針	第19期・2025年度取組手段	主な担当部署	達成度の評価		コメント	次年度の取組
			4～9月	10～3月		
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1.昼休等、不要場所の消灯	総務部 技術部 設計部	○	○	・総量目標「達成」	継続
	2.給茶機のエコ運転(勤務体系、季節等)		○	○	電力使用量は基準値から2%削減と目標を上回る結果となりました。	継続
	3.器具の監視と定期交換・清掃		○	○	昨対でも電力使用量は3.4%削減(電灯－6.6%、動力 3.5%)しました。	継続
	4.空調は必要な区域・時間限定		○	○	空調機の簡易点検を定期的に行い、異常の早期発見に努めています。	継続
	5.空調機フィルターの定期清掃		○	○	3月中旬に室内照明のLED工事を実施した事で、次年度は更なる削減を実現します。	継続
CO2排出量の削減 (ガソリン使用量の削減)	1.急発進・急加速・急停止の禁止	技術部	○	○	・総量目標は「未達成」、環境効率指標に基づく目標は「達成」	継続
	2.暖機運転・アイドリングストップ		○	○	ガソリン＋軽油使用量は基準値から26%増加となり、総量目標はクリアできませんでした。	継続
	3「エコドライブ」にこころがけましょう」等車内でのPR		○	○	環境効率指標に基づく目標(売上高当たりのCO2排出量)は、売上高が基準値比	継続
	4.エコカー等への切替検討		○	○	181%と大幅増となった事より、目標達成となりました。	継続
	5.公共交通機関の利用		○	○		継続
	6.自転車通勤の奨励		○	○		継続
廃棄物排出量の削減	1.顧客にて発生する産廃削減の検討	総務部 技術部 設計部	○	○	・総量目標は「未達成」、環境効率指標に基づく目標は「達成」	継続
	2.納品時の梱包・包装の削減		○	○	昨年からは10%削減したものの、基準値から2%増加となり、総量目標はクリア	継続
	3.マイカップ、マイ水筒運動		○	○	できませんでした。	継続
	4.CO2削減値の把握と展開		○	○	環境効率指標に基づく目標(売上高当たりの排出量)については、売上高が	継続
	5.分別による削減方法の検討		○	○	基準値比181%と大幅に増えた事もあり、目標達成となりました。	継続
	6.ゴミの減量化		○	○		継続
水使用量の削減	1.節水の呼びかけ	総務部	○	○	・総量目標「達成」	継続
	2.清掃回数減少→汚さない工夫		○	○	各自の日々の取組により基準値から5%削減と目標を大きく上回る結果となりました。	継続
OA紙購入量の削減	1.印刷物の必要最低限量の考慮	総務部 技術部 設計部	○	○	・総量目標「未達成」	継続
	2.社内配布・PDF&メールの増加		○	○	昨年からは1.4%削減したものの、基準値から3.9%増加となり目標をクリア	継続
	3.ミスコピー防止の為の設定リセット		○	○	することはできませんでした。	継続
	4.両面・集約機能を利用したコピー、印刷		○	○	引き続き、裏紙利用の推進、両面・集約機能を利用して削減に取り組んでいきます。	継続
	5.裏紙コピー、使用済封筒等の利用		○	○		継続
化学物質の監視	1.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含有されていない事の確認	技術部	○	○	購入実績無し(化管法PRTR制度及びSDS制度の特定化学物質見直しに関して確認)	継続

環境方針	第19期・2025年度取組手段	主な担当部署	達成度の評価		コメント	次年度の取組
			4～9月	10～3月		
社会貢献・対顧客活動 など (環境関連法規の確認 含む)	1.環境関連法令の改正、新規該当法令の確認	総務部 技術部 設計部	○	—	法令の確認は4月に行っている。	継続
	2.環境配慮型商品の積極的PR		○	○		継続
	3.HPの見直し、改定		○	○	顧客との環境VA提案活動に積極的に参加し3件の改善提案を提出し採用されました。	継続
	4.特定Fロン回収、適正処理(顧客対応)		○	○		継続
	5.環境負荷低減の為の情報提供		○	○		継続
	6.構外の除草、清掃		○	○	構外の除草は定期的に行い、小学校の通学路においても除草・清掃を行ないました。	継続

<7>環境関連法規制等取りまとめ表（遵守評価記録）

毎年定期的な遵守評価の前に制定、改正の確認を行う。普段から規制の動きには注意を払う。

登録簿更新日：2023年7月15日

保管：事務局

遵守の評価日：2026年5月11日

伝達：関連部署

	承認	作成
登録	大野	山田
	環境管理責任者	事務局
遵守評価	大野	山田
	環境管理責任者	事務局

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	関連条例等による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告・資格				担当部署	遵守評価		判定者
					許可	届出報告	資格	届出先		証拠	判定	
廃棄物処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認	廃棄物処理法第6条	一般廃棄物(紙くず、繊維くず、木くず、生ごみなど)	・1回/年					総務	契約書・許可証	○	山田
	・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約		産業廃棄物(金属類・廃プラスチック類・廃ガラス・廃油・木製パレット)	・契約書/許可証につき1回/年					総務	契約書・許可証	○	山田
	・保管、収集・運搬の基準 部署毎に保管する 収集・運搬・・・月2回 第1、第3水曜日 技術部等臨時の場合別途	2011年10月より・月2回に	処理委託 (大和エネルギー)								○	山田
	・マニフェスト交付 電子マニフェスト	廃棄物処理法第11～13条				○		知事	総務	マニフェスト	○	山田
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	毎年6月末迄に提出		6月初旬提出予定		○		知事		報告書	○	山田
消防法	・受注工事に消防設備がある場合	消防用設備(第31条の3関係)	顧客	新設・変更時(事前・事後)		○	○	該当市町村の消防本部	技術	新設(有・無)	○	山田
	・当社内消防設備(消火器具、非常警報器具及び配線)	消防用設備(第31条の3関係)／年1回点検・3年に1回届出	社内 点検委託(絹庄)	2026年2月27日実施	業者委託		○	小牧市消防本部	総務	点検報告書	○	山田
高圧ガス保管法	高圧ガスの取扱、事前届出、管理	高圧ガス保管法第四章	使用機会無し						技術	工事届	○	山田
フロン排出抑制法	・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認 ・簡易点検、定期点検の実施	フロン排出抑制法	空調機設置・修理時 委託(破壊証明書提出)	廃棄時 修理時					技術	破壊証明書	○	山田
下水道法	排水の管理(生活排水のみ)	下水道法第12条	下水道	化学物質を使用の場合事前検討					総務 技術	生活排水のみ	○	山田
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	・性状及び取扱いに関する情報(SDS)の提供 ・指定化学物質の管理(非使用、基準遵守等)	化管法第14条／施行令	現状無し						技術	SDS提供状況	○	山田

・環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

<8> 代表者による全体評価と見直し・指示

1)「評価」

環境負荷項目と削減目標に関して、基準値を改訂し、新たな目標として2025年度から2027年度の3年間で3%削減を掲げた初年度となった。

基準値の1%削減を目標とした今年度は、「ガソリン＋軽油使用量」は基準値から26%増加、「産業廃棄物排出量」は2%増加と両項目とも総量目標はクリアできなかった。

「ガソリン＋軽油使用量」は、工事件数が昨対93%と若干減少したものの、遠方での工事案件が多く、走行距離が昨対111%となったことが要因と考える。「産業廃棄物排出量」については、昨対では約90%と削減はしたが、目標にわずかに届かなかった。

電力、OA用紙、水使用量については、一部目標に届かなかったものがあつたが、いずれも昨年度から削減はされており一定の評価はできる。

環境効率指標に基づく目標(売上高あたり排出量)は、売上高基準値比181%と今期も大幅に増えた事で、「ガソリン＋軽油使用量」、「産業廃棄物排出量」共に目標達成することができた。

また、太陽光発電量は合計で24,529KWHの発電があり、年間で10,327Kg-CO2排出を低減できた(売電)。

2)「見直し・指示」

目標達成できなかった、「ガソリン＋軽油使用量」、「産業廃棄物排出量」については、技術部の売上要因(出張や工事件数・場所、クリーンブース設置台数)が大きく影響する項目である。遠方の出張やクリーンブース設置台数は増加傾向のため、目標値をクリアするためのハードルは高いが、個々の削減・増加要因を分析し、改善に向けた取り組みを継続していく。

目標達成できていた項目(電力、水使用量)については、引き続き地道な取り組みを続けること。「環境経営方針」、「実施体制」については、引き続き方針の徹底及び目標達成に向けた活動を促進していくため次年度も継続する。

現状の取組・課題を全社で共有し、環境経営をさらに推進させるため、全社一丸となって取り組んでいく。

2026年5月18日

トヨシマ電機株式会社
代表取締役 朝倉正幸